

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん拠点病院以外の病院およびがん拠点病院における、診断時からの緩和ケアに関する実態調査

研究分担者 恒藤 暁 京都大学 医学研究科 教授

研究要旨

我が国におけるがん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）とがん治療を行っているがん診療連携拠点病院以外の病院（以下、非拠点病院）の院長もしくはがん診療責任者への調査は平成30年度でとりまとめが終了した。令和元年度は、地域がん診療病院を含む拠点病院等437施設で勤務する、医療従事者対象の調査の「がんと診断された時からの緩和ケア」の考え方・態度について自由記述回答への質的解析を行った。地域がん診療病院を含む拠点病院等437施設で勤務する、乳がん治療医、消化器がん治療医、肺がん治療医、緩和ケア担当医、がん看護責任者を対象とし自由記述への回答はそれぞれ、76名(23.2%)、62名(18.9%)、61名(18.6%)、129名(39.3)から得られた。院長もしくはがん診療責任者への調査と概ね同様の結果であったが、緩和ケアに関わる医療スタッフの不足に関する意見が特に多かった。挙げた問題点や解決策を俯瞰し、解決可能で優先度の高い問題を整理する必要があると考えられた。

A. 研究目的

平成30年度に医療従事者を対象とし、現場で直面する診断時からの緩和ケアの実施に関わる障害・促進因子の調査を行った。

そこで、量的解析を補完する目的で、自由記述により診断時からの緩和ケアに対する考え方・態度についての回答を求め、その質的解析を行った。

質的解析において、内容分析の手法を採用した。2名の独立した研究者が回答内容を確認し、コードを付与した。抽出されたコードは、緩和ケアを専門とする医師を交え合議の上、決定された。一貫性と妥当性を担保する目的で、経験豊富な質的研究者が適宜スーパーバイズを行い、最終的に研究者全体の総意の上、データが確定された。

B. 研究方法

1. 研究デザイン

調査票を用いた郵送法による横断調査の質的解析

2. 調査対象

調査対象は、昨年度報告の通りであり割愛する。

3. 統計解析

（倫理面への配慮）

本調査研究は、医療従事者に任意の回答を求める調査であり、人体から採取された試料等を用いない。京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会より各種研究倫理指針の対象外とする答申を受け、倫理審査は省略した。回答は任意であり、調査票への回答・返送をもって同意取得とみなした。

C. 研究結果

地域がん診療病院を含む拠点病院等437施設で勤務する、乳がん治療医、消化器がん治療医、肺がん治療医、緩和ケア担当医、がん看護責任者を対象とした。それぞれ215名(49.2%)、202名(46.2%)、200名(45.8%)、249名(57.0%)、249名(57.0%)から回答を得た。そのうち、自由記述への回答はそれぞれ、76名(23.2%)、62名(18.9%)、61名(18.6%)、129名(39.3%)であった。

がん治療医、緩和ケア医ともに、早期からの緩和ケアの重要性とニーズを感じている一方で、全員への早期からの専門的介入は不要・困難と考えていた医師が一定数いた。阻害因子として、患者や治療医の緩和ケアに関する知識・理解不足、緩和ケア医の抗がん治療や治療期患者への関心・理解不足、医療資源不足・偏在、多職種連携の困難さ、緩和ケアの名称のイメージの悪さが挙げられていた。対策や促進因子として、緩和ケアに関わる医療者の増員、多職種連携構築、介入対象者を同定する評価と体制の構築、医療者教育、社会啓発、患者教育などが挙げられていた。

D. 考察

院長もしくはがん診療責任者への調査と概ね同様の結果であったが、緩和ケアに関わる医療スタッフの不足に関する意見が特に多かった。挙げた問題点や解決策を俯瞰し、解決可能で優先度の高い問題を整理する必要があると考えられた。

E. 結論

緩和ケアに関わる医療資源の限界がある中、より効果的・効率的な緩和ケアサービスの提供できるよう、具体的な対策を講じていく必要があると考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Uneno Y, Sato K, Morita T, Nishimura M, Ito S, Mori M, Shimizu C, Horie Y, Hirakawa M, Nakajima TE, Tsuneto S, Muto M. Current status of integrating oncology and palliative care in Japan: a nationwide survey. *BMC Palliat Care*. 2020 Jan 24;19(1):12. doi: 10.1186/s12904-020-0515-5.

2. 学会発表

1. Yu Uneno, Yoshiki Horie, Yuki Kataoka, Masanori Mori, Mami Hirakawa, Takaaki Suzuki, Takako Eguchi Nakajima, Chikako Shimizu, Satoru Tsuneto, Tatsuya Morita, Manabu Muto. Barriers and facilitators to implementing the integration of oncology and palliative care: A systematic review12th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation in Health, 4-6th Dec 2019.

G. 知的財産の出願・登録状況

特許取得

なし

実用新案登録

なし

その他

なし